

## 鈴木と三人の医師

鈴木とは、明治時代から大正時代にかけて、証券業界で活躍し、成金王と呼ばれた鈴木久五郎氏です。

鈴木は、明治10年に幸松村八丁目で出生しました。

鈴木家は、江戸時代に代々名主役をつとめた豪農の家でした。五代目の鈴木兵右衛門は、酒の醸造業を始め一代で巨万の財をなし、県で当時第二位の多額納税となった。鈴木はこの人の孫です。

長男は兵右衛門を襲名し、越ヶ谷町に「鈴木銀行」を開業していました。

鈴木は明治35年、26歳の時日本橋小網町の一角に「鈴木銀行東京支店」を開設し、支店長となった。

そのかたわら、日露戦争の最中にヨーロッパ見物を志して旅に出たが、途中で戦勝の報を聞き、外遊をやめて帰国し株をやる決心をした。

株を「買い」の一点張りとして有名株を買いこみ、戦勝により株価が上昇したので、多額の利を得た。

久五郎は、30歳で日本経済界を動かすような大物になったのです。

当時の政界・財界の主要人物はもち論のこと、当時日本に亡命していた中国の孫文とも親交を深めて、株式界の王者として活躍した傑物であった。

この鈴久が、市内八丁目に居住（現在の料亭・大榎が住居であった）していたころ、鈴木家の主治医として折原・安孫子・持木の三医師がいた。

鈴久は前述のとおり的人物で、大成金でぜいたくこの上なしの人物であった。その反面慈善家でもあったよううで、福祉方面でもその足跡を残していた。

ある時、この三名の医師を粕壁町で開業させようと考え、折原を横町（旭町）に、安孫子を上町（春日町）に、持木を新宿組（本町）にと、それぞれに同じ様式による建物を新築して与え、近郷の医療に貢献する基礎をつくつたと伝えられている。

当時の建物はいまは改築されてその姿を見ることはできなくなったが、昭和51年春まで、安孫子医院の建物がその面影を残していた。

この三名の医師は非常に熱心で仁術にすぐれ、献身的な医術をもって住民の診療に努力をされたと今も古老から賞賛されている。

持木医院（現在白鳩）以外は現在も後継者が医院を経営している。

その中で安孫子医院は、大正7年に粕壁産婆看護婦学校を設立して、医療補助機関育成につとめ、戦前までこの事業は続けられていた。

この三名の医師が春日部市内外の医療に昼夜の別なく貢献されたことは、いまでも多くの人びとから語られています。

それにつけても、鈴久の名は忘れられないであろう。

※市史近世史料編〇※<sub>1</sub>を希望の方は、残部がありますので、お申し込みください。

(市史編さん室) 電話⑥六四四二番※<sub>2</sub>

初出「広報かすかべ 昭和五十六年五月」かすかべの歴史余話

※1 昭和五十五年発行。在庫は文化財保護課(春日部市教育センター内)にお問い合わせください。

※2 掲載当時のまま作成しました。市史編さん室は春日部市教育センターで活動しております。

(※1、※2とも、平成二十八年十月現在)